

2016
33号
10.15

しんじゅ 新樹

前橋市男女共同参画情報誌

情報誌「新樹」は、水と緑と詩のまち前橋をイメージし、男女平等の葉が青々と茂るようという願いを込めました。

前橋市のホームページからでもご覧になれます

前橋市 新樹

検索

前橋市 HP→市政情報→参画・協働・交流→男女共同参画

地域で取り組む男女共同参画 田口町編 … P.2、3

ホテルを守る会
生涯学習奨励員 高橋初江さん



男女共同参画セミナー

… P.4

三遊亭竜楽さん講演



男女共同参画セミナー

… P.5

川上未映子さん講演



みんなで子育て
笑顔で健やかに
… P.6



地域における防災活動 … P.7

(男女共同参画の視点から)

海外レポート ハンガリー編 … P.8

この情報誌は、市民ボランティア編集委員と前橋市が協働で作成しました。

前橋市男女共同参画センターではDVやパートナーとの関係等でお悩みの方の相談を受け付けています。

☎027-898-6520 (相談室) 平日9:00~16:00

※面接相談は、お電話で予約のうえお越しください。

地域で取り組む男女共同参画 田口町編

田口町は、前橋市の北西部に位置し、町内には「ホタルの里」「橋山憩いの森」「冒険遊び場」などがあり、田口菜の産地としても知られています。自然豊かな環境の中で、地域の温かな輪が広がっていました。

「ホタルを守る会」の地域おこし

夏の夜を淡い光で彩るホタル。昔はあちこちの川辺で見られた光景が、環境破壊や開発の進展で、今ではあまり見られなくなってきました。そんなとき、ホタルが住める自然を取り戻そう、と活動を開始したのが田口町の「ホタルを守る会」の皆さんです。会の皆さんに活動をお聞きしました。

「最近ホタルを見ないね…」から始まった

昭和の終わり頃、田口町は開発が進み、住宅なども増えていきました。夏の風物詩だったホタルも次第に姿を消し、滅多に見ることができなくなっていました。その頃、水草や小魚が生きやすい環境の田んぼの水路をコンクリートのU字溝に変える計画が出ました。それをU字溝に代えると、生き物は住めなくなってしまうと、ちょうどそんな時期でした。

「その年、たまたまホタルが大発生したんです。久しぶりだったので、ずっとホタルを見ていなかったことに気付かされました」と会のメンバー。「ホタルの舞う自然を取り戻したい」という仲間が集まり、昭和63年12月に『ホタルを守る会』を結成しました。

小川をかつての清流に

守る会ではU字溝敷設を中止し、手間はかかるが生き物に優しい土の土手のままにすることにしました。汚れの原因だった上流からの生活排水や、農薬の混じった田んぼの排水は、新たに設置した水路に流し、毒性の強い農薬使用を止め、低農薬を心がけました。

ホタルの復活には、エサとなるカワニナ巻貝の一種が欠かせません。減ってしまったカワニナの養殖を始め、ホタル育成ハウスの設置、土手の草刈りから川沿いの木道整備、植樹などホタルと自然を取り戻すための努力が続きました。

その結果、次第にホタルの姿が増え始め、評判を聞きつけた観賞者が集まるようになりました。そのため、発生前期間中来場者の整理などをする「ホタル当番」を守る会を始め、自治会、育成会などの協力で実施するようになった。



芝田保彦さん 高橋昭一さん 小野坂和幸さん
小野坂悦子さん 吉野榮一さん 青木英昭さん

お話をうかがった皆さん



自治会や育成会など
たくさんの方の協力で
ホタル祭りは大盛況

【田口町データ】(H28年8月末日現在)

住民数	2,009名	
構成 男	948名	女 1,061名
65歳以上	638名	(全住民の32%)
75歳以上	314名	(全住民の16%)



水辺に舞うやさしいホタルの光

**ホテルを中心に
地域に求心力ができた**

ホテルの姿が増え、訪れる人も増えるにつれて「だんだん協力する人が増え、今では田口町をあげての事業になっていきます。特に外から見に来る人が多くなると、ふるさと田口町を誇る気持ちも強くなっています」とメンバーの一人は、ホテル効果を強調します。

平成20年に環境大臣賞をいただく他、数多くの賞を受賞し、その社会的評価からホテルの里は全国的にも知られるようになりました。

守る会の小野坂和幸会長は「歴代の会長、役員を始め関係者の協力のおかげでここまで来ることができました。ホテルをきっかけに子どもから高齢者まで交流の輪が広がっています。これからも田口町のシンボルとして守っていききたいと思えます」と語ってくれました。

生涯学習奨励員

高橋初江さん

田口町には、多方面で活躍している方が数多くいらっしゃいます。その一人、生涯学習奨励員の高橋さんは、豊富な人脈と経験を活用し、地域を盛り上げています。



奨励員の仕事は、地域の仕掛け人

生涯学習奨励員は、身近な「学びのボランティア」として、地域の生涯学習を盛んにするために活動しています。高橋さんは10年以上奨励員として活動されています。

田口町生まれの高橋さんは結婚を機に一時前橋を離れ、十数年後、田口町に戻りました。単身赴任中の夫の昭雄さんが、川越で大学野球の監督をしているのでシーズン中は行ったり来たり。前橋では、地域活動や料理教室を始めるなどネットワークを広

げてきました。

里山を活用した「冒険遊び場」

ホテルの里の南に「南橋地区冒険遊び場」があります。この活動も奨励員がサポートしていますが、十年前はなかなか子どもが集まらず苦労したそうです。

そこで幅広い人脈を使って講師を頼み、南橋地区14町それぞれにイベントを組みました。リサイクル友の会の手作りおもちゃ、エアロビクス、知人の中国人の協力で本場の餃子作り、ペットボトルのロケット作り、読み聞かせ、ガールスカウト、山菜おこわ、手打ちうどんなど。《喜ばせ隊》の仲間たちが、心よく協力してくれました。今では、物作りのイベントと、流しそうめんなど食べ物の組み合わせで、大勢の子どもが集まるようになりました。



冒険遊び場

地域全体を文化祭の会場に

「町には育成会、体協、町内会などいろいろな組織があります。でも、そこを離れると人間関係が薄くなっ

てしまいます。長続きするネットワークとして、誰でもいつでも参加できる場を作りたかったのです」と高橋さん。

多彩な催しを展開してきましたが、集大成の一つが町の文化祭。20年ぶりに再開した文化祭は、大勢の人に参加してもらうために餅つきや、あんびん餅作りも。公民館いっぱい作品の中には、鉄道ジオラマもあり毎回大人気。他にも分散会場を設け、そばの会のそばは美味しいと大評判。その他、洋裁教室や染色教室もそれぞれの教室で展示会を開催。去年は「桃の木川を守る会」も、広場で活動展示と出店を出して盛り上がりました。

「地域の活性化は、人と人とのつながりが基本です。それぞれの特技や関心を生かした企画を作ると、びっくりするほどの相乗効果が生まれます。奨励員は、そのきっかけ作りのお手伝いだと思っています」と高橋さん。

文化祭の評判が広がり、今では田口町以外の人も多く訪れるそうです。(取材・記事…高坂)



20年ぶりに復活した田口町文化祭

「落語を通じて考える男女共同参画」



講師 三遊亭 竜楽さん 落語家

平成4年、真打ちに昇進された前橋出身の竜楽さん。ま
えばし観光大使でもあります。これまで世界各地で、現地
の言葉で落語の口演をしています。今回は男女共同参画に
ついて落語を交えて楽しくお話してくださいました。

海外公演で思うこと

先日中国浙江省へ行ってきました。
中国は体裁を重んじる国で、舞台上に
は私の大きな写真と、でかでかと
「日本国最高演技者真打」「前橋市観
光大使」と書いてある。その時思っ
ましたね。任命されて良かった！
私は海外公演を150回位やりま
したが、そこから学んだことは、奥
ゆかしさだけでなく、自己主張も大
切だということです。

江戸時代の男性と女性

落語の舞台である江戸時代は、男
女共同参画とは真逆の世界です。そ
の理由は、仕事のほとんどが力仕事
であったこと、そして、子どもの死
亡率が非常に高く女性が出産・子育
てに専念する必要があったことなど
です。夫が外で働き、女房が《内助
の功》で支える江戸の価値観の上に
成り立っている「芝浜」という噺。

女性の職業

江戸時代の庶民の教育レベルの高
さがわかるのが「無筆」という小噺。
通りがかった友だちが「お、おま
えなにじてんだろ」「お、おねえ、兄
貴に手紙書いてんだよ」「ふせよ。お前
字なんか書けやじねえ、じやないか」「
うん、うん。兄貴だつて読めねえんだから」



字の読めない人を笑う噺が寄席で
演じられていたので、観客の
大多数は読み書きができたというこ
とがわかります。当時、識字率の高
さは群を抜いて世界一だったはずで
す。江戸時代、全国に《庶民の学校》
寺子屋が約1万5千軒もあり、女性
の師匠も活躍していました。女性に
も教育の機会が与えられ、男女の知
的レベルも同等だったと思われま
す。また当時珍しい女性の専門職に髪
結びがありまして、その髪結びと遊
び人の亭主の「厩火事」という噺。



髪結びの亭主は怠け者でじまうち
ら夫婦喧嘩。見かねた仲人から、離縁
を勧められた髪結び。亭主の気持ち
を試すため大事にじている井を割って
みると「怪我はなかり」と案じる亭主。
「やっぱり私の身体を大事に思っ
てくれたんだね」と喜んだのも束の間、
「お前が怪我でもしてみねえ。昼間か
る酒を飲めねえ」

女性落語家

元々落語の世界は完全な男社会
で、すべての演目が男性目線で男が

女性の社会進出の必要性

演じるために作られています。演技
のスタイルもそれに応じて工夫され、
200年以上かけて言葉の芸術として
磨かれてきました。女性落語家とし
て活躍している方々は、大変な努力で、
お客様を楽しませる個性を作り上げ
たプロフェッショナルだと思います。
ただ、その割合は落語家の数パー
セントに過ぎません。これは女性の
能力が劣るとか、チャンスを与えな
いということではなく、落語そのも
の問題です。タカラヅカに男性が
似合わないように、また歌舞伎に女
性が必要なように、その業界の特殊
性に根ざしているのです。

しかし、我々のような特殊な芸能
の世界を除けば、現在ほとんどの仕
事において男女差はありません。そ
れどころか、男性の仕事とされた分
野に女性が進出し、男性以上に力を
発揮することすら少なくないのです。
今までの古い価値観を払拭し、女
性の社会進出を押し進め、その能力
を十分に活用することこそが、少子
高齢化問題を抱える日本を救う大き
な力になると信じています。

(取材・記事…佐々木)



竜楽さんの話術に
笑ったり、ほろりしたり…

「女性の仕事と子育て」



講師 川上 未映子さん 作家

2008年に『乳と卵』で芥川賞を受賞された川上さんが、ご自身の子育て経験をもとに、仕事と家庭の調和についてお話していただきました。

出産育児エッセイ『きみは赤ちゃん』

ちゃん』を書いた訳

私は4年前に出産し、妊娠から出産後の2年間で『きみは赤ちゃん』という本にしました。言葉にならないあの怒濤(どたばた)の2年間で言葉でどこまで書けるか、挑戦したいと思いました。言語化することは、「何が一体問題だったのか」とか、「あの時どうして涙が止まらなかったのか」を、一つ一つうやむやにせずに自分の中に取り戻す作業だったのだと気づきました。

知らない間に「お母さんアプリ」

が入ってた

もう一つの気づきは、自分の中に母親ってこうなんだという根深い刷り込みがあったことです。出産や育児は大変なんだろうけれど、仕事は大切だし、岡本かの子のように出産したら子どもを柱にくく

りつけてめっちゃ仕事したるでくらいな気持ちでした。

でも産んだ瞬間から誰にも教わってないのに「母乳育児にこしたことはない」「母親だったらできるはず」「母親は子どものために犠牲になれる存在だ」とかそういう物語がどんどん一斉にこっちに向かって来る感じでした。その一言、一言が無意識に突き刺さるんです。知らない間に自分の中に「お母さんアプリ」が入っていたんです。

全てを背負う母親たち

「育児や介護は女性が得意だからやる。」それって本当？誰が決めたのですか？

私は夫がおむつ替えをした時、「ごめん、ありがとう。」と言っている自分に気がついたので。私たちが2人の赤ちゃんなのに。これも刷り込みですよね。だから、「おむつ替えは

母親がして当たり前とは思わない」と言葉にして決めたら、そこはクリアできたんです。言葉って大きいんですよ。関係性は言葉で決まっています。感じることや思うことを言葉にして話し合うというのを、男女の間で当たり前にやって行かないと、結婚して子どもを育てていくことはムリなんです。



構造に問題あり

女性は、昔はどこそこの娘さんと言われて、結婚したら嫁さん・奥さんと呼ばれ、次は誰々のお母さん。個人がなかつたですね。日本はまだ男女格差のある国です。「女性が輝く時代」は仕事・出産・家事と女性を使い尽くすだけです。景気低迷の時代に生まれ育った若者達にとって、結婚や子どもを持つことは贅品。これはもう構造の問題です。「マミートラック」という言葉があります。これは高学歴で、キャリアを目指して頑張ってきた女性が、出産を選ぶことで、キャリア形成をあきらめてしまうことです。男性は逆に子どもが熱を出したので会議を失礼しますとは言えない。男性社会ではそれを認めないんですよ。とにかく構造が先にあって私たちの生きづらさがあるのです。

意識と言葉を変えよう

男はこう、女はこうというよりも、

個人として選べる時代になってほしいと思います。

夫を「主人」と言うのはやめませんか。「主人」って上下関係を表す言葉です。「旦那さん」も同じです。今、若い男性が妻を「うちの嫁」って言っています。なんなのでしょう。

言葉の運動って大事ですよ。言葉一つで全て変わるとは思えないけれども、刷り込まれたアプリを解除することが大事です。

他にも戸籍制度や夫婦同姓は現実的には女性側に負担を強いることなんです。

モヤモヤを言語化しよう

皆さん、ツイッターやフェイスブック等をしていますか。そこでは声にならない声が集まります。日々繰り返す言語化していくことはほんとに武器なんですよ。いろんなものを変えていく第一の方法です。少しでも変と思ったら、みんなで声をあげていくことがほんとに大事になってくると思います。

フェミニスト

私はフェミニストです。フェミニストって本当は性差別をしない人達の名称です。だから今回の私の話を聞いてそうだなあと思ってくれた方は、これから一緒の方向を向いて何かを変えていけるんじゃないかなと期待しています。

(取材・記事：池田)

～みんなで子育て 笑顔で健やかに～

少子高齢社会の現在、子どもを大切に育てることはもちろん、子育て中の女性が働きやすい環境を整えることは社会の責任ではないでしょうか。

共働きの世帯は増えています。その中で妊娠、出産、そして子育ては、男女共同参画社会の現在、父親と母親との共同作業でなくてはなりません。育休も父と母で選べる時代になりました。しかし父親の中で、育休を取る人は何パーセントでしょうか。女性が、子育てしながら生き生きと働き続けるためにはどうしたらよいのでしょうか。



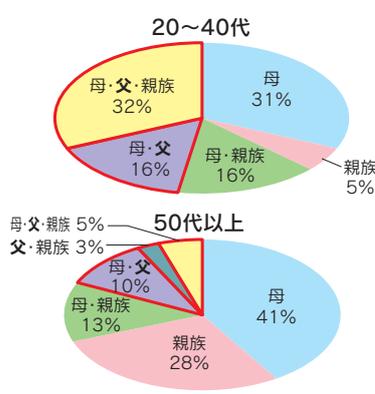
子育ては苦勞？

保育所、幼稚園に元気に通っている時は大丈夫でも、熱が出るなど子どもが病気になる時に、誰が面倒を見られるか、悩ましい問題が出てきます。

今回、川上未映子さんの講演の際に子育てについてのアンケートを採らせていただきました。

アンケートでは、50代以上の世代とそれ以下の世代について、お父さんが子育てにかかわる割合の違いが出ました。グラフからも分るように最近の若い父親は子育てに参加しているようです。

子どもが病気の時に誰が面倒をみるか



アンケートでは、仕事と育児の両方の悩みが多く寄せられました。以下一部抜粋します。

- ・急に具合が悪くなった時、仕事を休まなくてはならなかった。
- ・転勤族で誰にも頼ることができなかった。

- ・自分の体調が悪い時も子どもの世話をしなければならなかった。
- ・眠いのに眠れない。
- ・先の見えない不安があった。
- ・自分の時間が全く無くなってしまい、育児に失望しかけたけれど、仕事を再開したことで育児以外の時間が持てて、悩みが解消した。

最近、保育所問題がさまざまな場面で報道されています。女性が子育てをしながら働き続けるには子どもを安心して預けられる環境が必要です。

前橋市子育て施設課の方に お話を聞いてみました

本市では、保育所の入所について、0歳児～2歳児に関しては年度の途中で入るのは難しいが、産休・育休明けで入所を希望する場合母子手帳取得後から申し込みが可能です。翌年度の募集は9月～10月に一次募集を、1月に二次募集を行います。子どもは最小受入年齢を満たしていれば、復職の1カ月前から預けることができます。

現在本市では3歳未満児の数が増えているそうです。働く女性が増えているということでしょうか。

子どもを産み、育てることはとても大変なことではありますが、私たちの未来であり生きがいでもあります。すべての人が、働きながら、安心して

て子育てができる社会を望みます。何時でも、手を差し延べてもらえたり、誰かと話したり協力し合えたりよいですね…参考にしてください。(取材・記事…佐藤)

●お子さんが病気の治療中または回復期で集団保育等が困難、家庭保育ができない時

病児・病後児保育施設…「おひさまの家」済生会前橋病院敷地内
【問い合わせ】前橋市保健センター内 子育て施設課 027-220-5706

●保護者が病気等の都合で養育できない場合

ショートステイ 短期入所生活援助事業
【問い合わせ】前橋市保健センター内 子育て支援課 027-220-5702

●お子さんの発達等で心配な事がある場合

【問い合わせ】こども発達支援センター 027-220-5707

そのほか、子育てサロン(社会福祉協議会 地域福祉課027-237-1112)や公民館、児童館等で、親同士が気軽に交流し子育てを楽しめるような子育てサークル、また、前橋プラザ元気21の子育て広場プレイルームなど、一人で悩まず、さまざまな施設、サークルを活用してみましょう。

地域における防災活動 (男女共同参画の視点から)

東日本大震災、熊本地震、各地での自然災害に備える防災活動に関心が高まっています。自分達の命や生活を守るために、身近に私たちでできることを考えてみましょう。

防災士^{あかば}の赤羽潤子さん(NPO法人わんだふる理事長)にお話を伺いました。

※特定非営利活動法人日本防災士機構による民間資格



かほるちゃん



赤羽防災士



赤羽潤子さん



防災には何が必要ですか。



災害時、生死の明暗を分けるのは「防災についての知識」と「情報」です。自分の住む地域に即した、知識や情報を身に付けることが何より大切です。



そういえば、**前橋市総合防災マップ**という冊子が家にも配られていたわ。時々家族やお友達と見て、知識や情報を学んでおくといいですね。



自分達の住んでいる地域を歩いて危険な場所・安全な場所を確認し、身近なマップを作るといいですね。



私の住んでいる地域は一人暮らしのお年寄りが多いんです。



災害の時は地縁力、ご近所の連携が大切です。半径約200メートルのご近所さんが気軽に寄れるサロンなどがあるといいですね。



いざという時に助け合えるご近所同士のお付き合いが大切なんですね。では避難所について教えてください。



安心できる避難所運営については、男女双方の視点が必要です。特に乳幼児、高齢者、女性への配慮については、運営側に女性が入ることで細やかな行き届いた支援ができます。



男の人だけでは気が付かなかったり、実行できにくいこともありますね。



地域コミュニティが避難所の開設・運営などを自ら行える体制づくりが求められています。避難所では最初の3日間が支援も不足がちで、いかに乗り切れるかがポイントです。その後は外からの支援も届きやすくなりますからね。まずはトイレの確保です。ビニール袋があれば、簡易トイレを作ることができ、衛生的に処理することができます。



トイレは大事ですものね。



防災備品は100円ショップにもたくさんありますよ。持ち出し袋は自分自身で作ってみましょう。そして3カ月ごとに袋の中身をチェックして下さいね。



前橋市総合防災マップの裏表紙には非常持ち出し品のチェックリストも載っているわ。私も揃えておこう！

前橋市防災ポータルサイト <http://www.city.maebashi.gunma.jp/bousai/>

(取材・記事：奈良)

各戸に配付されています



総合防災マップ
【問い合わせ】
危機管理室：027-898-5935

ラップの活用法



防寒用として



食器にかぶせれば洗わずにすむ

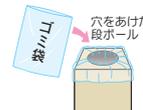


新聞紙で作った
添え木
三角巾代わりとして
(傷口がある時は避けて下さい)

ゴミ袋の活用法



防寒用や雨具として
色つきなら着替えの目隠しにも



簡易トイレとして



海外レポート

ハンガリー編



オルシオー・ゲルゲイさん (33歳)

姓がオルシオー、名がゲルゲイ

10年ほど前にアニメや武道がきっかけで日本に興味を持ち、2012年9月から交換留学生として1年間群大で学ぶ。

2年前に再来日し、群大大学院で平和憲法を研究している。ハンガリーの伝統料理「グヤーシュ」も得意。

ハンガリーは多様な民族音楽が有名で、そこから影響を受けたリストやバルトークなど著名な作曲家が輩出されています。近年では数学者で大道芸人でもあるピーター・フランクルさんもハンガリー出身です。

日本と同じ温泉大国で、その歴史は古く、約2千年前までにさかのぼります。今も大浴場や温泉湖では水着で温泉を楽しんでいます。また、前橋市は東京オリンピック・パラリンピックでハンガリー柔道のホストタウンに登録されています。

今回、ハンガリー出身の群馬大学大学院生オルシオー・ゲルゲイさんに自国のお話を伺いました。

世代で異なる意識や生活スタイル

第2次世界大戦後、社会主義の時代が続きましたが、1989年以降は共和制国家となり、2004年にはEUに加盟しました。社会主義時代を長く経験した両親の世代と、私達若者の世代では様々な点で異なります。例えば両親の世代はロシア語を教えられ、ほとんどの人が英語は話せません。私達の世代は英語が話せますし、EUの加盟国として、多くの若者がイギリスやドイツに活躍の場を広げています。また、父の頃に比べ転職も一般的となりました。

結婚後の姓

姓名は日本と同じ、姓が先で名が後になります。結婚後の姓については様々な選択肢があり、法改正により「夫婦別姓」「夫と妻の姓名をたす」「夫の姓に妻の姓名をたす」「夫の姓に妻の名をたす」などから選ぶことになりました。



オルシオーさんの故郷
ブダペストの冬の風物詩
イルミネーション・トラム (路面電車)
夜景の美しいブダペストの夜をいっ
そう魅力的にしている



※ハンガリー伝統料理『グヤーシュ』
パプリカの一大産地であるハンガリーでは、パプリカを使った野菜と肉の煮込み料理として有名。昔は外での昼食用に大鍋で作っていた。

子育てや教育

労働力の減少や低賃金のため、共働きが普通です。育児休業は普通1年間ですが、3年間取る人も珍しくありません。就学前教育と言って、小学校に入学する前に幼稚園に通園する義務があります。小学校には授業終了後、宿題の指導等を行いながら子どもを預かる午後のコースが設けられています。夏休みは祖父母が面倒を見たり、サマーキャンプに参加させたりします。(高校までは授業料は無料ですが、教科書代や給食費はかかります。)

女性・子ども・高齢者優先

ハンガリーは、レディーファーストが徹底しています。食事の時など、男性が飲み物を配ったりするのが当たり前。日本に来て、仲間と食事中に飲み物がなくなり、女性が皆の分を取りに行ってくれた時は「逆ではないか」と恥ずかしく感じました。色々な場面で、女性が先になるように男性はさりげなく動き、女性もそれを自然と受け入れています。

またバスや電車などでも、妊婦や小さな子ども連れ、高齢者には、皆が自然と席を譲っています。このような思いやりのある習慣が浸透しています。



総面積：約9.3万km²(日本の約1/4)
人口：約990万人
(2015年7月現在)
首都：ブダペスト
言語：ハンガリー語
主要産業：機械工業、化学・製薬工業、
農業、畜産業
通貨：フォロント

男女共同参画センターだより

女性が元気になる映画会のお知らせ



『マダム・イン・ニューヨーク』

日時：11月5日(土) PM1:30~4:00

会場：シネマまえばし(元気21 北側)

対象：市内在住の女性

定員：100名(定員になり次第締め切り)

入場無料

© Eros International Ltd.

(申し込み・問い合わせ)

※男女共同参画センターへ

電話：027-898-6517 (土・日・祝日休)

編集委員



佐藤真理子 佐々木信子 奈良かほる
池田榮一 高坂 均

発行日：平成28年10月15日 編集：「新樹」編集委員

発行：前橋市 男女共同参画センター 〒371-0023 前橋市本町一丁目5-2 職員研修会館1F

直通電話：027-898-6517 FAX：027-221-6200 メールアドレス：sankaku@city.maebashi.gunma.jp

《新樹33号のご意見・ご感想をお待ちしています！》

新樹第33号・2016年10月15日 8